

心理学研究法

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 畑田 惣一郎

■使用テキスト 高野陽太郎・岡隆(編)『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし』有斐閣

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

心理学研究法では、心理学の研究法を学ぶことで、心理学は実証科学であることを理解してもらう。

添削課題では、第2～4章、6～7章、10～13章を学習する。各章のキーワード（概念）として提示してある部分は、重要なポイントとして学習を進める。また、一つの概念は複数の章でカバーされているので、テキスト巻末の索引を利用して横断的に学習すると理解しやすい。添削課題をしっかりと取り組み、単位認定試験を受験されると良い。

到達目標

- 1) 心理学でよく用いられる研究方法の概要が理解できる
- 2) 教員のアドバイスを受けながらも簡単な研究を適切なデザインで立案できる

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

第2章 実験と観察

この章のポイント

実証研究を大別すると、実験的研究と観察的研究に分けることができる。この章では、これら二つの研究の比較を通して心理学研究を把握する。

この章のキーワード（概念）：実験的研究、観察的研究、独立変数、予測変数、基準変数

第3章 実証の手続き

この章のポイント

この章では、抽象的な概念を実験の場でより具体的な手続きとして測定する方法について学ぶ。特に、補助仮説は重要な考え方である。

この章のキーワード（概念）：抽象的概念の明確化、補助仮説、操作的定義

第4章 独立変数の操作

この章のポイント

実験において結果に影響をあたえる独立変数とその純化、実験手続きの標準化、実験の妥当性の問題等を学習する。重要な章であるため、中心的に学習する。

この章のキーワード（概念）：独立変数、概念的独立変数、直接独立変数、補助仮説の役割、独立変数の多重意味と純化、パイロット・テスト、独立変数の水準、実験の標準化、外的妥当性、内的妥当性、構成概念妥当性、内的妥当性を低下する要因

第5章 従属変数の測定

この章のポイント

第5章は範囲外であるが、**従属変数とはなにか**について知るために参照すると良い。

第6章 剰余変数の統制：第1～3節（90～112頁）、Column⑥（114～118頁）

この章のポイント

この章では、実験デザインの核心である剰余変数（独立変数以外で従属変数に影響すると推定される変数）の統制方法を学ぶ。第4章とこの章は実験手続きで重要である。

この章のキーワード（概念）：剰余変数の統制、個体差の統制、組織的配分、無作為配分

第7章 さまざまな実験法

この章のポイント

実験室での実験法の他に、実験法に準ずる研究法を学ぶ。

この章のキーワード（概念）：実験室実験、質問紙実験、現場実験、自然実験、準実験、評価研究、社会実験

第10章 調査法

この章のポイント

心理学研究で頻繁に用いられる質問紙調査（アンケート調査等）について学ぶ。

この章のキーワード（概念）：質問紙調査の特徴、質問紙調査の項目の順序、無作為抽出法、系統抽出法、多段抽出法、層化抽出法、面接調査、留置調査、電話調査、郵送調査、集合調査、ワーディング、ダブルバーレル、誘導質問、コンテクスト効果、多項目から構成される心理尺度、心理尺度の構成

第11章 観察法

この章のポイント

質問紙法は、研究参加者に「聞く」ことであり、実験法や観察法は観察対象者を「観る」ことである。何をどのように観たらよいかをこの章では学ぶ。

この章のキーワード（概念）：自然観察法 vs 実験観察法、時間見本法、場面見本法、事象見本法、生態学的妥当性、観察場面でビデオ機器使用

第12章 検査法（250頁まで）

この章のポイント

検査法の基本を学ぶ。

この章のキーワード（概念）：検査法、妥当性、信頼性、予測的妥当性、基準関連妥当性、弁別的妥当性、再検査信頼性、信頼性 vs 妥当性、検査の標準化、検査手続きの標準化

第13章 面接法

この章のポイント

面接といえばカウンセリングを連想するが、この章では研究のための面接の基礎を学ぶ。

この章のキーワード（概念）：構造化面接、半構造化面接、共感的理解、無条件の肯定的関心、面接者の自己一致、特殊性、個別性、プロトコル、プロトコル・シート